

人むすびの場

第42回テーマ

“ずっと続く支援をどう広げるか”
～被災地との思いの共有の仕方～

日時	平成24年1月26日(木) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

- 19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝
- 19:05 ◆スピーチ
「ずっと続く支援をどう広げるか
～被災地との思いの共有の仕方～」
岡坂 健(おかさか・たけし)さん
(東日本大震災支援全国ネットワーク<JCN> 事務局)
- 19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 角田 知行
- 20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(ピアンタ)



「ずっと続く支援をどう広げるか

～被災地との思いの共有の仕方～

ゲスト 岡坂 健(おかさか・たけし)さん

(東日本大震災支援全国ネットワーク<JCN> 事務局)

●「東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)」は今、712団体を超え、多様な支援団体が連携し、「ずっと続く支援を。」と活動を広げています。

●北関東東北水害、有珠山噴火災害、三宅島噴火災害、新潟中越地震において災害ボランティアとして活動してきました。愛知県の防災NPOからJCN事務局に参加、年明けからは住まいも移して支援団体のネットワークに主に、情報分野で人材マッチングやイベント案内、支援案を共有し、現場で何が起きているのかを発信しています。

●今回の災害被害者の非難の様相は、仮設住宅だけに避難しているわけではなく広域避難となっているので、全国に拡散しており、実態がつかめないということです。そして、避難者は孤独で、いつ帰れるのかと切望しています。

いわれのある所に災害が降りかかりますが、生き残った方もあれば、遺族もたくさんいて、自分の家がなくなったり、被災者の心の中は複雑です。

●阪神淡路大震災の時とは異なり、NPOがあるから連携にしようとしていることですが、今回の細分化する被災後の問題はどんどん日本国中に拡散しており、これまでのどの災害とも違ってきます。参考になるのは、全島避難し、5年後に帰ってきた三宅島噴火災害でしょうか。

●災害復旧のステージから考えると災害後1ヶ月から元の状態に戻るまでは、地域住民と専門家の手によりますが、今回は問題の実態が把握できていないから、長期化し、今後もボランティア・一般市民の係り合いが大きいと考えられます。

●一般市民ができる支援では、今後もボランティアは必要です。特に専門スキルがなくても携わっていくことでスキルを身につけることができます。現地に行かないとわからないのです。

たとえば、壊れた心のためのカウンセラーは「傾聴」が大事ですが、それは世間話を聴いていることだったりします。だからできることは、いろいろあります。

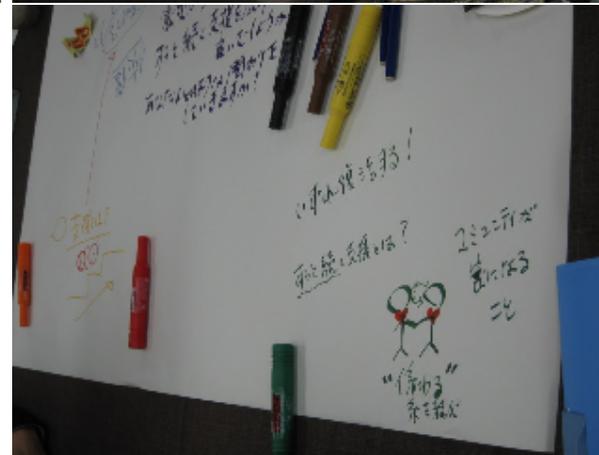
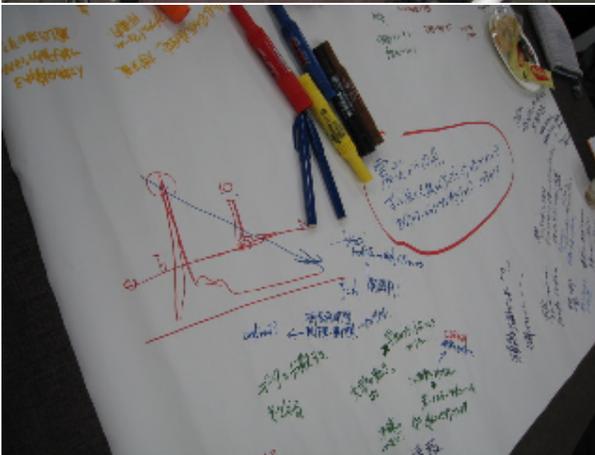
●今、日本のNPO団体は、世界から監視され、試されています。富の配分を含め、他の団体と手を結び、やっていくことが大事なのです。

そのためのつなぐ情報支援をJCNで今後も取り組んでまいります。

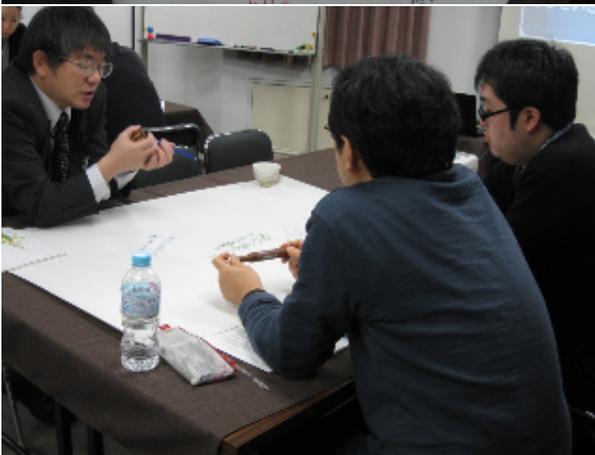
【岡坂 健さん略歴】

東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)事務局。1976年長野県伊那市生まれ。日本福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒。98年の北関東東北水害をきっかけに、北海道有珠山噴火災害)、新潟中越地震など各地の支援活動に情報分野で活動。01年から災害救援NPO(NPO愛知ネット)の職員として地域での防災講座、啓発プログラムの開発、市民活動センターでのコーディネータ業務を担当し、株式会社レスキューナウ等を経て現職。





人むすびカフェ



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・「知られていないこと」に気付いた。
- ・社会人の方が、自分のフィールドからお話をされていて、今までにはない観点から知ることができた。
- ・対口支援は被災者側の支援力の差
- ・一つの仕事に打ち込むことの重要性
- ・「ずっと続く支援とは何か」答えはすぐ出るようなものではないが
考えつづけ、できることに係わり続けること
- ・社会は穴だらけ
- ・支援を日常生活の中に組み込むこと、東北のことが東京の人の生活にも
(良い)影響を与え、新しい社会を創り出す契機となるはず・・・という
意見に共感！
- ・リセットではない新たなもの？
- ・日常的支援 東北で出来ること
- ・融合することが必要、重要な時だ！
- ・新たな日常をどう作るかは大切。その展望を共有することが支援。
思いを共有する。

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・「支援って何？」と思う／考えること。
「政治」の側面で見ること・・・「どこに穴があるのか？」と探ること
- ・係わりをいかに保つか／築くか
- ・大きなNPOも悩んでいる。世界中から監視されている。
- ・できることをやるというよりやりたいことをできること
- ・生い立ち ⇒ なんでそれをやるのか？
- ・民営・行政・NPO／NGOの一体化した社会づくりが必要
(ワールド・カフェでの気づき)
- ・支援する側とされる側
- ・引力かなア
- ・受援 支援
- ・日本の良さをよみがえらせる
- ・「流れ橋」の思想 支援する人とされる人の関係も今までとは違い、新しい
人と人との関係づくり

本日の感想③

*** その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。**

- ・今日はお呼びいただきありがとうございました。
- ・初めての参加でしたが、非常に有意義でした。また伺いたいです。ありがとうございました。
- ・今日の話から、明日からやるべきことはみつからなかった。ネットワークを組んだストーリーが聞きたかった。
- ・やはり2ターンが適当 人は20分話してはじめて本音を語り出すらしい。
- ・深い議論ができない点は残念ですが、裏を返せば多様な話／切り口で考えられる場でした。
- ・3回目のセッションでは、質問を変えても良かったのではないかと思う。
- ・時間がいつものことながら不足
- ・出来ることでかかわることが大切
- ・自分を振り返るいい時間でした。
- ・岡坂さんの思いを聞いてよかったです。なぜ、中間支援的な仕事に情熱を持てるのか生き方が分かった。日本人の良さ、忘れていたことを気づかされる。

皆さん、一緒に場をつくってくださってありがとうございました。